

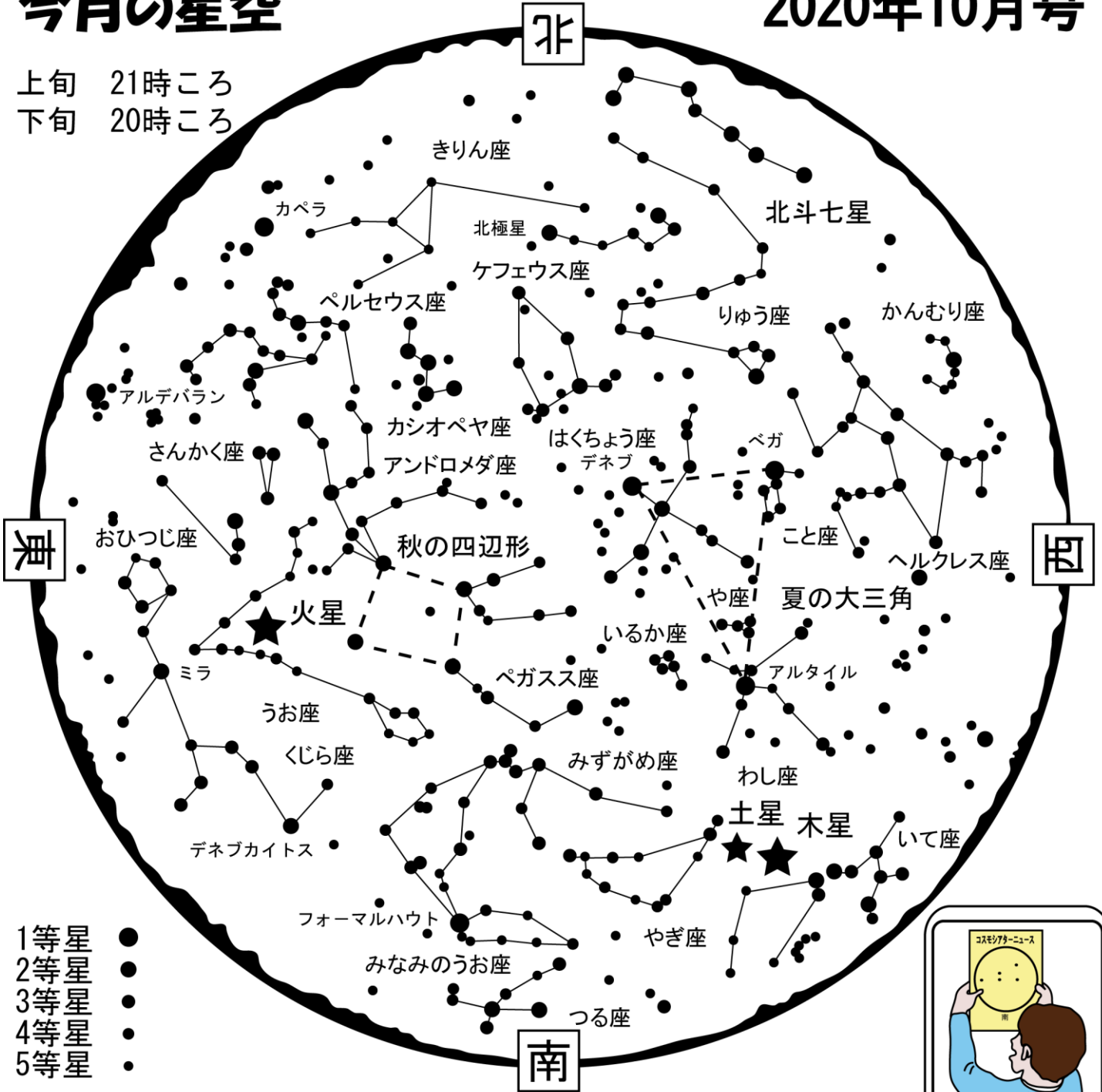
コスモシアターニュース

今月の星空

2020年10月号

上旬 21時ころ

下旬 20時ころ



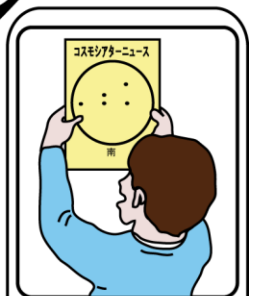
- 1等星 ●
- 2等星 ●
- 3等星 ●
- 4等星 ●
- 5等星 ●

今月の惑星の動き

- 水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しい。
- 金星：明け方、東の空に見えます。明るさは-4等星です。
- 火星：夕方、東の空に見えます。明るさは-2.5等星です。木星より明るく輝きます。
- 木星：夕方、南西の空に見えます。明るさは-2等星です。
- 土星：夕方、南西の空に見えます。明るさは0等星です。

今月の月の満ち欠け

満月：2日(金) 下弦：10日(土) 新月：17日(土) 上弦：23日(金) 満月：31日(土)



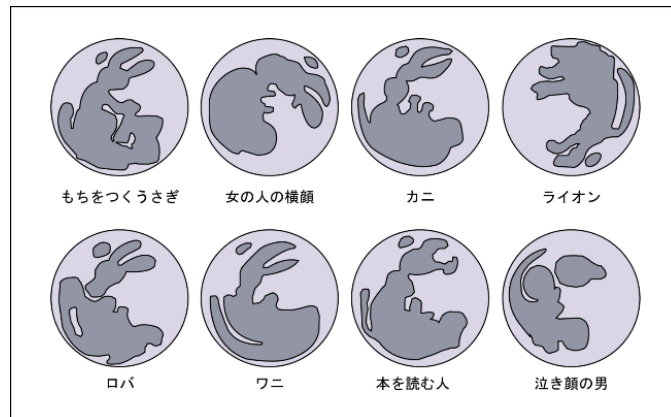
自分の向いている方向を下にして、見てください

1日(木)、中秋の名月

中秋の名月は、旧暦の8月15日で、いつもほとんど真ん丸の姿となります。今年の中秋の名月は、1日(木)となります。この日の月は、18時ころに東の空から昇ります。このころは、まだ高度が低いので、もう少し後の19時~20時ころが見やすくなるでしょう。

ところで、月を詳しく見ると、白い所と黒っぽい所があります。この違いを見て、昔の人は月にさまざま姿を想像しました。

右の図は、さまざまな国で見られた月の姿です。日本で一般的に有名なのが、もちをつかうさぎでしょう。しかし、国が変わればほかの姿もいろいろ考えられました。皆さんも、月にどんなものが見えるか、実際の空をご覧ください。



2日(金)、3日(土)、東の空で、月と火星が並んで輝く

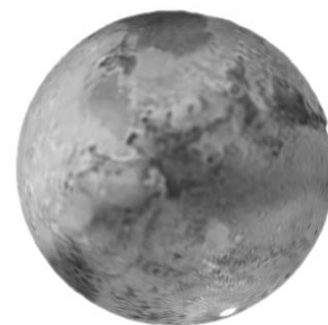
2日(金)の19時ころ、ほぼ満月の明るい月が昇ってきます。そして、月を追いかけるように、オレンジ色の明るい星が昇ってきます。この星が火星です。この接近が見やすいのは、20時以降になるでしょう。そして、3日(土)の夜、火星が先に昇り、月が追いかけて昇ってきます。月と火星の並びが逆になりますが、2日より接近した状態になります。

6日(火)、火星が地球に最接近

地球のすぐ外側を回る惑星・火星が、10月6日(火)に約2年2ヶ月ぶりに接近し、11月ころまで観測の好期となります。

火星が見えるのは、夕方は東の空、真夜中になると南の高い空へ移動します。火星がある辺りは明るい星が多くないので、すぐ見つかるでしょう。見つけ方のポイントは、火星はいちばん明るい星で、オレンジ色に輝いていることです。

火星は、肉眼で、ただの明るい星にしか見えません。しかし、天体望遠鏡を使うと、模様が見えてきます。右の図は、6日ころの火星の様子です。実際は、このように模様ははっきり見えませんが、注意深く見ると、表面の模様の濃淡が分かってくるでしょう。なお、コスモシアターでは、10日(土)に火星を見る観望会を計画しています。興味のある方は、電話で予約の上、ぜひご参加ください。



14日(水)、明け方、東の空で、月と金星が並んで輝く

14日(水)の明け方の午前4時から5時ころ、細い月が東の空に輝きます。そして、この月の右下を見ると、明るい星が輝いているのがすぐに分かります。この星が、明けの明星・金星です。この後、朝焼けで空が明るくなりますが、金星が明るいので、午前6時ころまで見えるでしょう。

22日(木)、南西の空で、月と木星、土星が並んで輝く

22日(木)の夜、月と木星、土星の接近が見られます。見やすいのは19時ころです。このころ、南西の空に月が輝いています。この月の左上に見える明るい星が、木星です。そして、木星の左上に見える星が土星になります。木星は明るるので、すぐに分かります。土星はやや暗いので、注意深く探してください。なお、翌23日(金)は、月が土星の左側に移動します。月から右へ、土星、木星と並びます。

29日(木)、東の空で、月と火星が並んで輝く

2日に続き、今月2回目の接近です。今回も月が明るく輝きます。見やすいのは19時ころ東の空です。月のすぐ左側に火星が輝いています。このように、ほぼ1か月に1回火星と月の接近が見られます。しかし、来月になると、火星が地球から離れるため、火星が暗くなりあまり目立たなくなるでしょう。

31日(土)、ブルームーン

2日に続き、31日(土)が今月2回目の満月となります。ひと月の中で、2回目の満月をブルームーンと呼びます。ただ名前のように、青く見えるわけではありません。